

平成25年度「公募型共同研究事業」の採択を決定しました

(公財)若狭湾エネルギー研究センターでは、福井県が推進する「エネルギー研究開発拠点化計画」に掲げる「研究開発機能の強化」の一環として、県内をはじめ、関西・中京圏の大学・研究機関等との共同研究を推進しています。

平成25年度は、4月10日～5月24日まで、事業化・実用化を目指す企業を研究体制に加えた「産学連携研究」と、研究者が共同で行う「基礎研究」に関する公募を行いました。

このたび、21件（産学連携研究4件、基礎研究17件）の提案があり、審査の結果、下記のとおり、7件（産学連携研究2件、基礎研究5件）の採択を決定しましたのでお知らせします。

記

【産学連携研究枠（2件）】

件名	研究概要	[提] 提案機関 [企] 参加企業
1) 高分子・化学系アクチュエータのパターン化複合電極材の創製と応用	イオンビーム照射により無電解めっきを自在にデザインできる技術を用い、3次元的に曲面を制御できる新しい高分子アクチュエータの開発へ発展させ、生化学分析デバイス(例えば、蚊に吸われた程度の量で血液検査が可能。)分野で注目されるマイクロデバイスへの応用を図る。	[提] 福井大学 [企] セーレン(株)
2) 新規な光合成・光形態形成機構モデル搭載の植物工場用光制御システムの開発	光の分光放射強度からレタスの成長を予測する光合成・光形態形成の機構モデルなどの要素技術で構成される、新しいインテリア用レタス栽培システムの実用化モデルを開発する。	[提] 福井大学 [企] 日野電子(株)

(掲載は提案機関五十音順)

【基礎研究枠（5件）】

件名	研究概要	提案機関
1) 太陽炉を用いた酸化グラフェン高温処理による高品質グラフェン大量製造技術の探索	太陽炉による超高温処理技術を利用して、がんやアレルギー診断を可能とするバイオセンサなど幅広い応用が期待される材料であるグラフェンを高性能化し、生産性の高い製造方法の確立につなげる。	大阪大学
2) 陽子線・ヘリウム線による脳壊死モデル作成技術の確立ー放射線脳壊死のメカニズム解明と治療法開発を目指してー	放射線治療で生じる可能性のある脳壊死のメカニズム解明と治療法開発のため、マウス等に陽子線及びヘリウム線を照射し、線量と脳壊死との関係を明らかにすることにより、脳壊死モデルの作成技術を確立する。	京都大学
3) 鋳型フリー水熱中有機無機変換合成法による窒化炭素系ナノチューブ材料の開発と組成分析および光触媒・水素吸蔵特性	独自に開発した有機無機変換合成法を用い、新しい光触媒・水素吸蔵・電池材料として期待される窒化炭素系ナノチューブ結晶材料を開発し、定量組成分析を行うとともに材料特性を明らかにする。	名古屋大学

4) 革新的陽子線がん治療のための腫瘍分子イメージング技術開発	腫瘍に特異的に取り込まれる放射性薬剤を利用してPET（陽電子放射断層撮影法）で画像化することで、腫瘍の位置や性状を描出し、治療効果の迅速な判定や的確な治療計画の作成につなげる。	福井大学
5) イオンビーム照射による白色腐朽菌の高性能化と、そのセルロース系バイオマス前処理への応用	トウモロコシなど食物由来のバイオ燃料に代わる木質バイオ燃料の生産効率を向上させるため、イオンビーム照射により高性能化させた白色腐朽菌を用いて、妨害物質であるリグニンを効率的に処理し、エタノールの回収効率を高める技術を開発する。	福井大学

(掲載は提案機関五十音順)

(公財) 若狭湾エネルギー研究センター
 企画支援広報部 坪倉
 TEL 0770-24-7273